

国立大学を中核とする共同利用・共同研究拠点等の活動状況について①

共同利用・共同研究の
受入人数

共同利用・共同研究課題の
採択件数

理工学
(共同研究)

理工学
(大型設備)

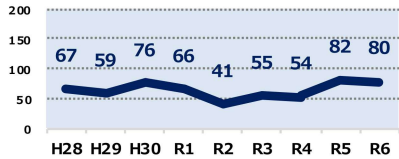
医学・生物学
(医学)

医学・生物学
(生物)

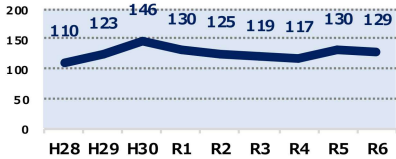
人文・
社会科学

異分野
融合

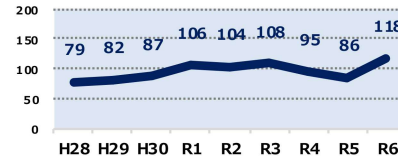
北海道大学低温科学研究所(43)



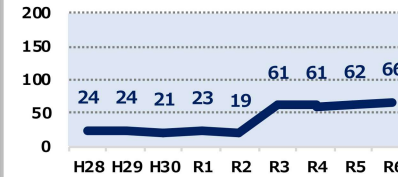
東北大学電気通信研究所(58)



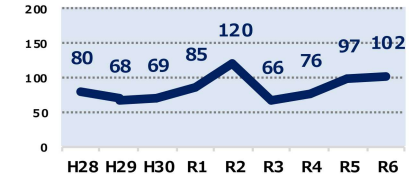
東北大学流体科学研究所(36)



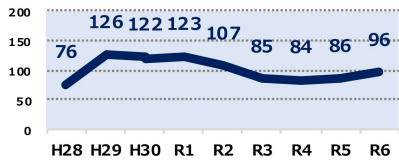
千葉大学環境リモートセンシング研究センター(12)



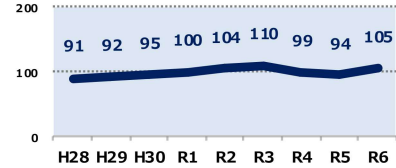
東京大学空間情報科学研究センター(19)



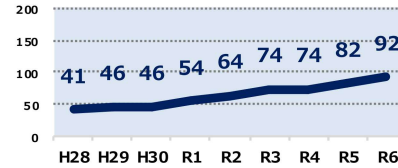
東京大学地震研究所(74)



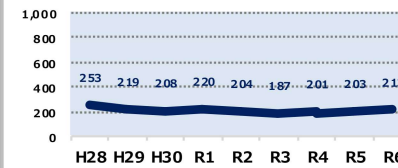
東京科学大学総合研究院フロンティア材料研究所(46)



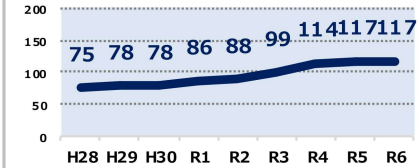
金沢大学環日本海域環境研究センター(17)



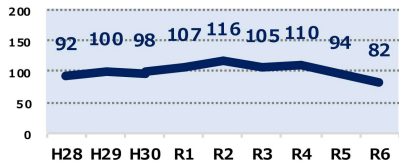
名古屋大学宇宙地球環境研究所(58)



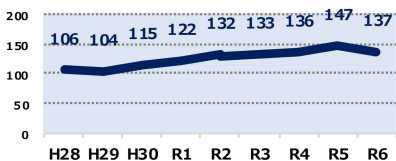
名古屋大学未来材料・システム研究所(75)



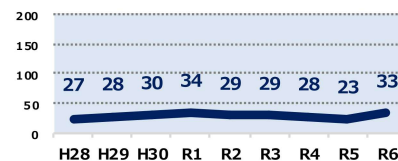
京都大学エネルギー理工学研究所(36)



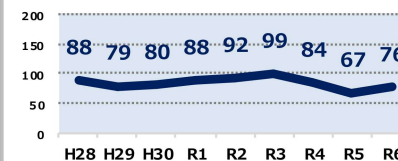
京都大学化学研究所(104)



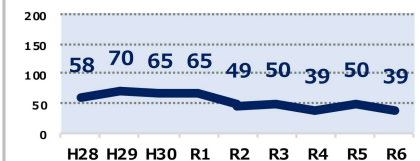
京都大学基礎物理学研究所(37)



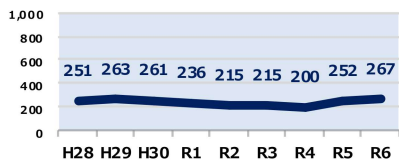
京都大学数理解析研究所(45)



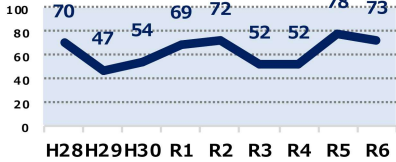
京都大学防災研究所(101)



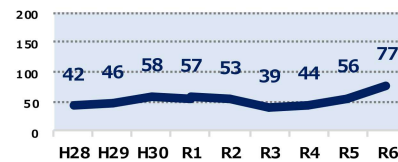
大阪大学接合科学研究所(42)



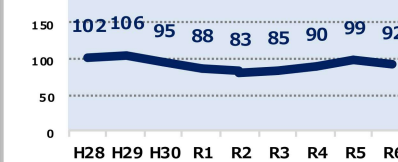
大阪大学核物理研究センター(41)



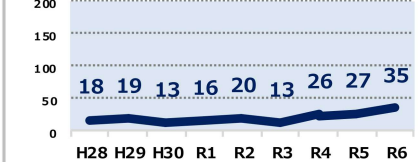
岡山大学惑星物質研究所(23)



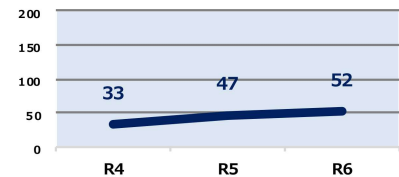
愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター(14)



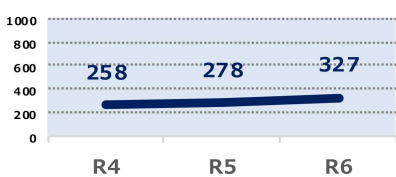
九州大学マス・フォア・インダストリ研究所(34)



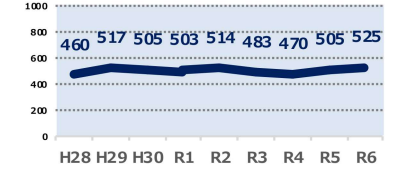
熊本・富山大学先進軽金属材料国際研究機構(17)



【NW】触媒科学計測共同研究拠点(75)



【NW】物質・デバイス領域共同研究拠点(388)



() は、R6現員数(教授、准教授、講師、助教、助手)

(出典) 各大学実施状況報告書をもとに文部科学省が作成

国立大学を中核とする共同利用・共同研究拠点等の活動状況について①

共同利用・共同研究課題の採択件数

共同利用・共同研究の受入人数

理工学
(共同研究)

理工学
(大型設備)

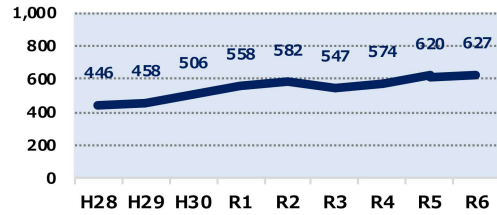
医学・生物学
(医学)

医学・生物学
(生物)

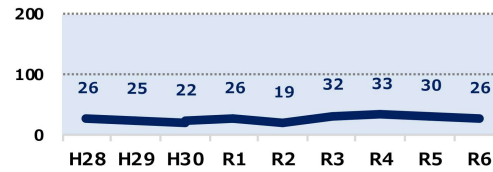
人文・社会科学

異分野融合

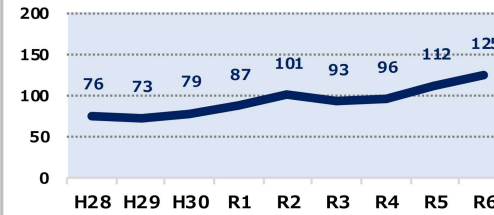
東北大学金属材料研究所(150)



東北大学先端量子ビーム科学研究センター電子光理学研究部門(14)



筑波大学計算科学研究センター(44)



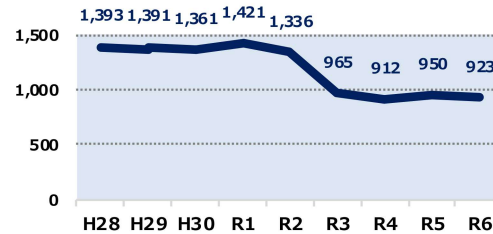
東京大学宇宙線研究所(62)



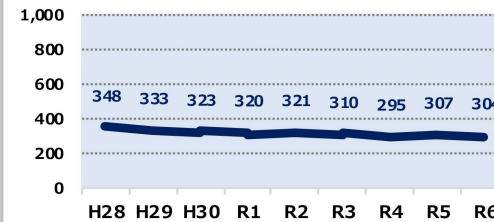
東京大学素粒子物理国際研究センター(30)



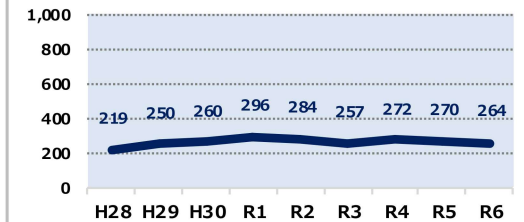
東京大学物性研究所(92)



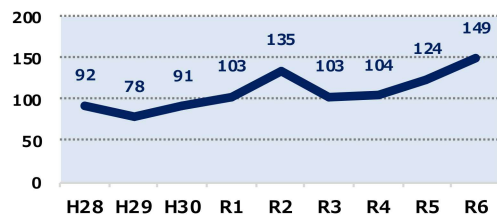
京大大学生存圏研究所(39)



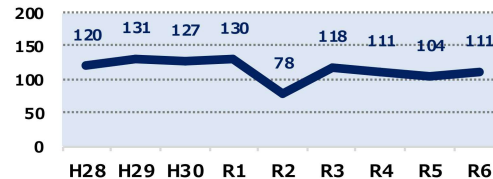
京都大学複合原子力科学研究所(66)



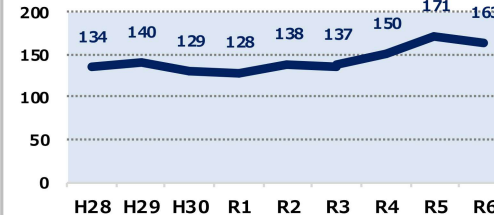
大阪大学レーザー科学研究所(32)



広島大学放射光科学研究センター(12)



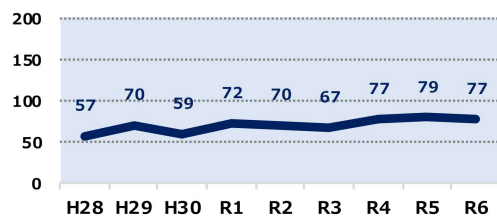
高知大学海洋コア総合研究センター(12)



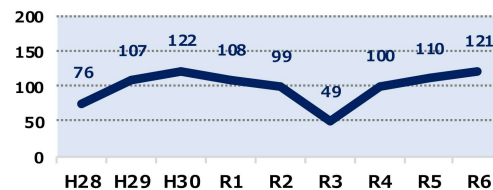
九州大学応用力学研究所(54)



佐賀大学海洋エネルギー研究所(13)



【NW】学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点(146)



() は、R6現員数(教授、准教授、講師、助教、助手)

(出典) 各大学実施状況報告書をもとに文部科学省が作成

国立大学を中核とする共同利用・共同研究拠点等の活動状況について①

共同利用・共同研究課題の採択件数

共同利用・共同研究の受入人数

理工学
(共同研究)

理工学
(大型設備)

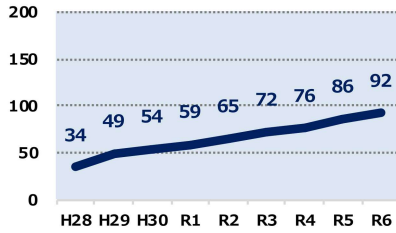
医学・生物学
(医学)

医学・生物学
(生物)

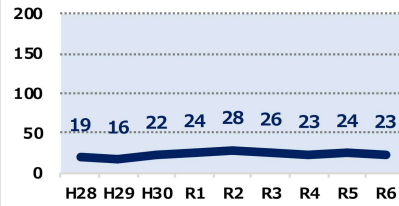
人文・社会科学

異分野
融合

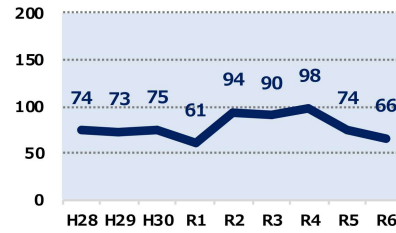
北海道大学遺伝子病制御研究所(29)



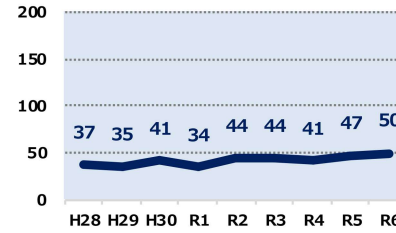
北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所(21)



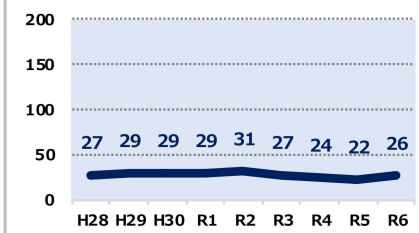
東北大学加齢医学研究所(34)



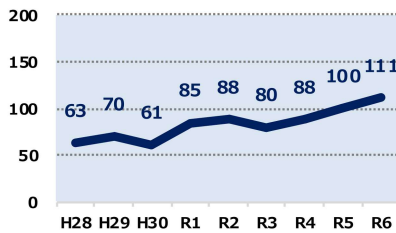
群馬大学生体調節研究所(37)



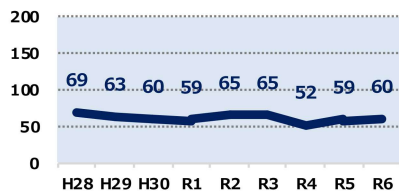
千葉大学真菌医学研究センター(15)



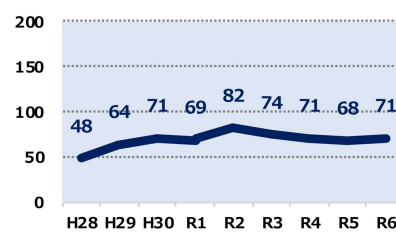
東京大学医科学研究所(150)



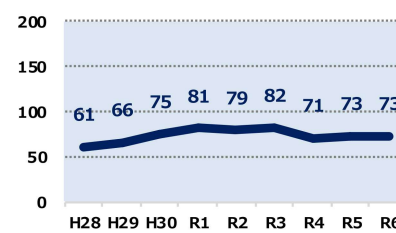
東京医科歯科大学総合研究院難治疾患研究所(62)



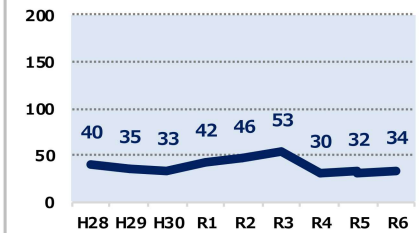
新潟大学脳研究所(71)



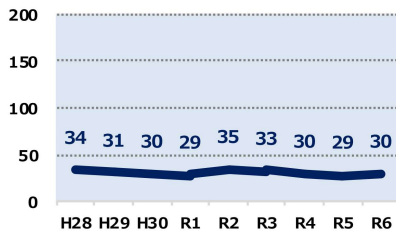
金沢大学がん進展制御研究所(38)



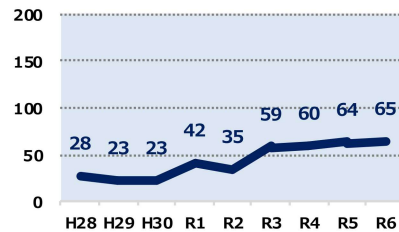
京都大学医生物学研究所(69)



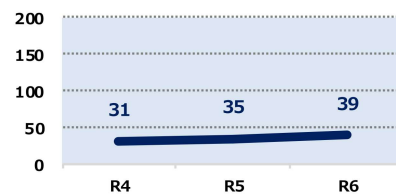
大阪大学微生物病研究所(79)



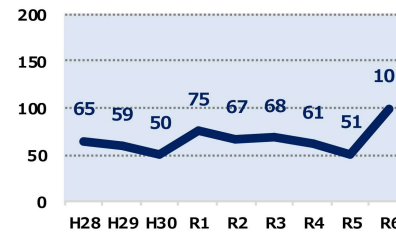
徳島大学先端酵素学研究所(37)



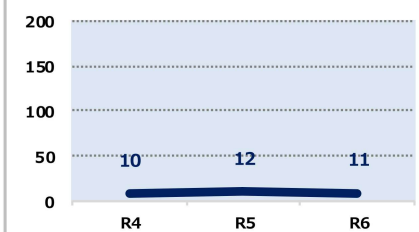
愛媛大学プロテオサイエンスセンター(23)



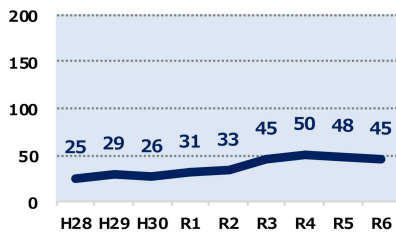
九州大学生体防御医学研究所(56)



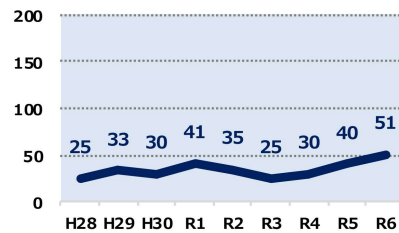
長崎大学高度感染症研究センター(19)



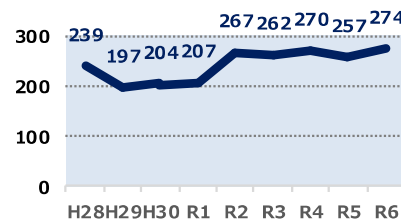
長崎大学熱帯医学研究所(62)



熊本大学発生医学研究所(31)



【NW】学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点(146)



() は、R6現員数 (教授、准教授、講師、助教、助手)

国立大学を中核とする共同利用・共同研究拠点等の活動状況について①

共同利用・共同研究の
受入人数

共同利用・共同研究課題の 採択件数

理工学
(共同研究)

理工学
(大型設備)

医学・生物学
(医学)

医学・生物学
(生物)

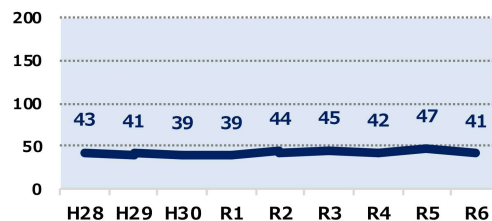
人文・
社会科学

異分野
融合

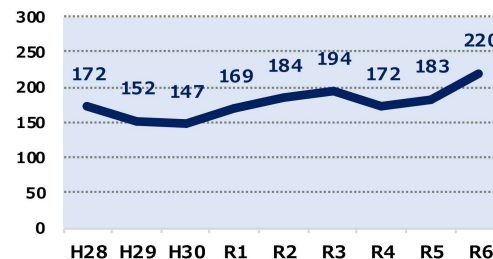
帯広畜産大学原虫病研究センター(12)



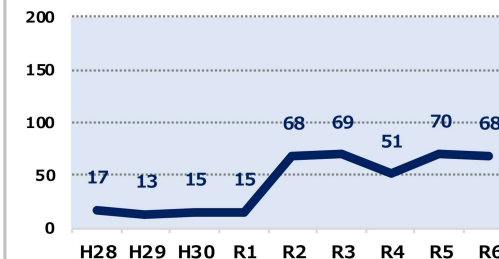
筑波大学つくば機能植物イノベーション
研究センター(20)



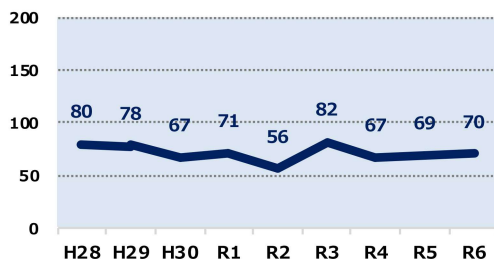
東京大学大気海洋研究所(79)



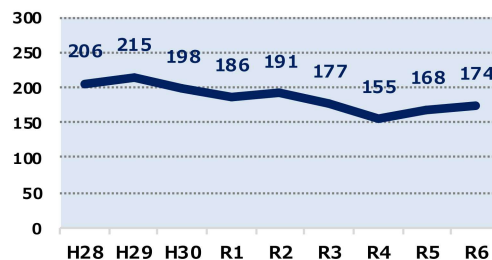
京都市大学生態学研究センター(14)



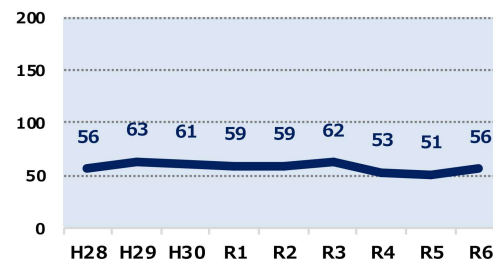
京都大学野生動物研究センター(9)



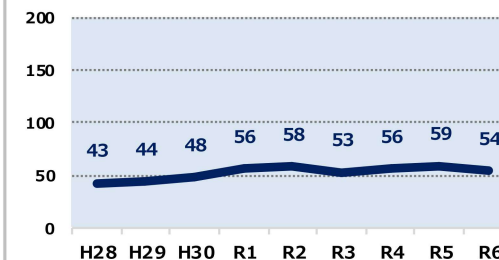
大阪大学蛋白質研究所(53)



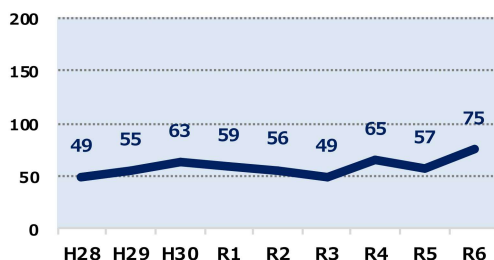
鳥取大学乾燥地研究センター(13)



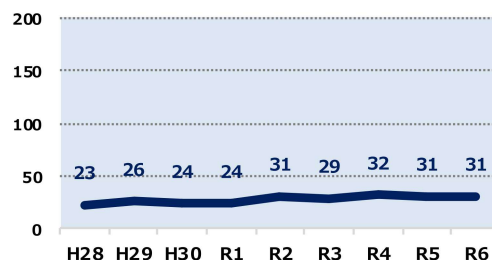
岡山大学資源植物科学研究所(38)



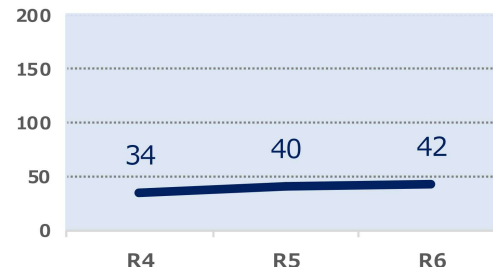
愛媛大学沿岸環境科学研究センター(17)



琉球大学熱帯生物圏研究センター(22)



【NW】糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点(86)



() は、R6現員数(教授、准教授、講師、助教、助手)

国立大学を中核とする共同利用・共同研究拠点等の活動状況について①

共同利用・共同研究の
受入人数

共同利用・共同研究課題の 採択件数

理工学
(共同研究)

理工学
(大型設備)

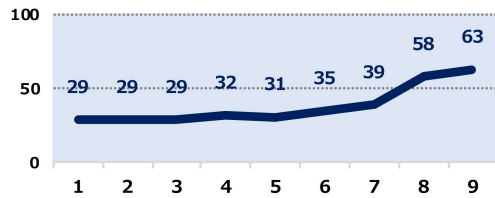
医学・生物学
(医学)

医学・生物学
(生物)

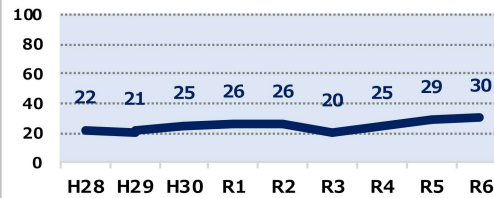
人文・
社会科学

異分野
融合

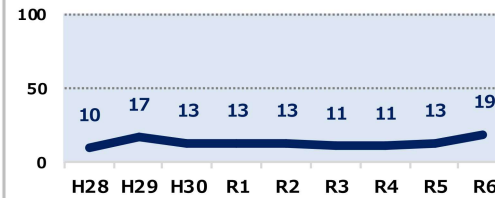
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
(14)



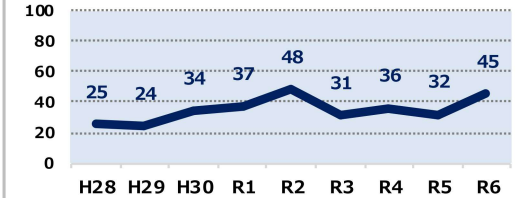
東京大学史料編纂所(52)



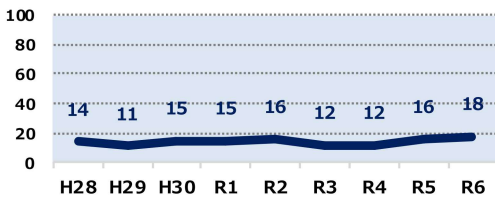
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研
究所(35)



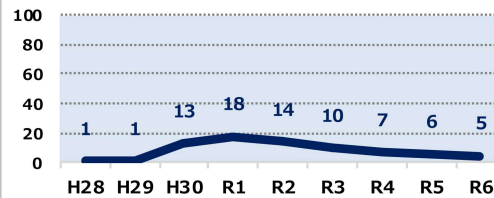
一橋大学経済研究所(26)



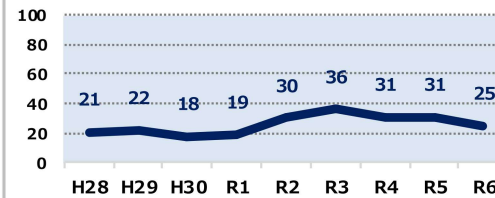
京都大学経済研究所(26)



京都大学人文科学研究所(51)



大阪大学社会経済研究所(24)



() は、R6現員数(教授、准教授、講師、助教、助手)

共同利用・共同研究の
受入人数

共同利用・共同研究課題の 採択件数

理工学
(共同研究)

理工学
(大型設備)

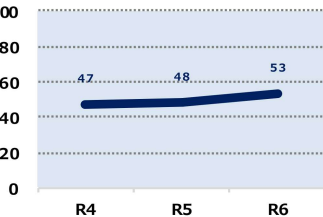
医学・生物学
(医学)

医学・生物学
(生物)

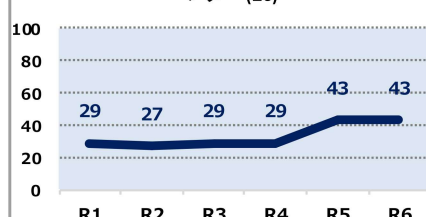
人文・
社会科学

異分野
融合

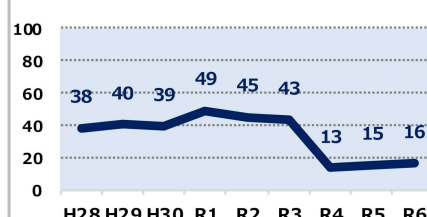
筑波大学ヒューマン・ハイ・パフォー
マンス先端研究センター(24)



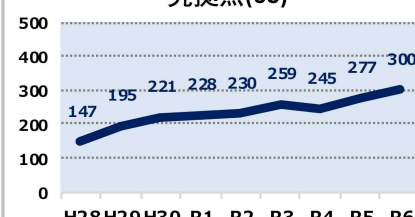
名古屋大学低温プラズマ科学研究セ
ンター(29)



京都大学東南アジア地域研究研究所
(36)



【NW】生体医歯工学共同研
究拠点(95)



【NW】放射能環境動態・影響評価
ネットワーク共同研究拠点(100)



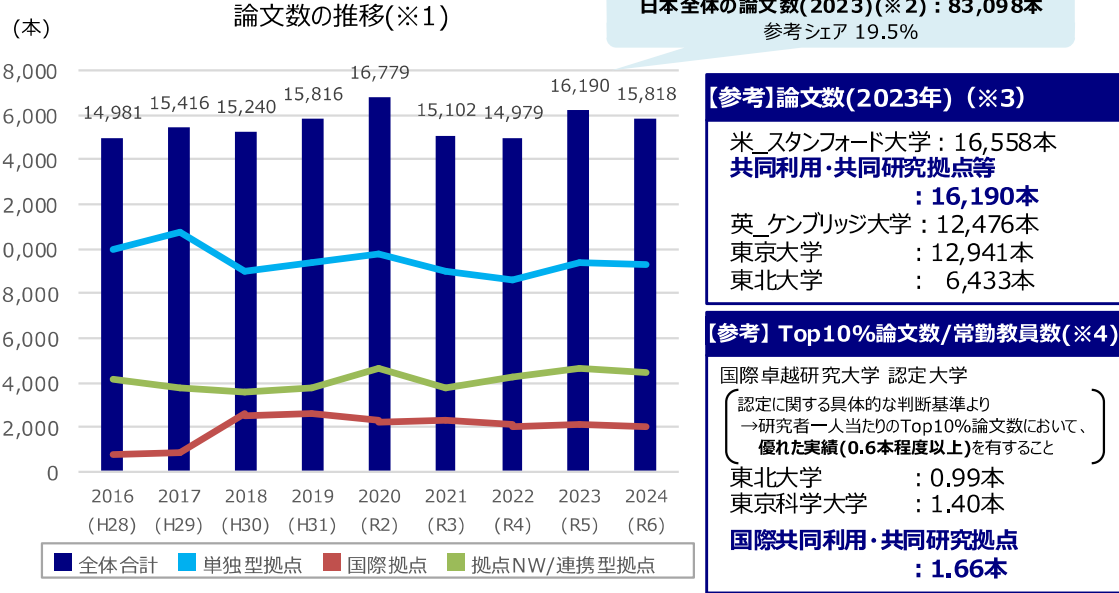
() は、R6現員数(教授、准教授、講師、助教、助手)

(出典) 各大学実施状況報告書をもとに文部科学省が作成

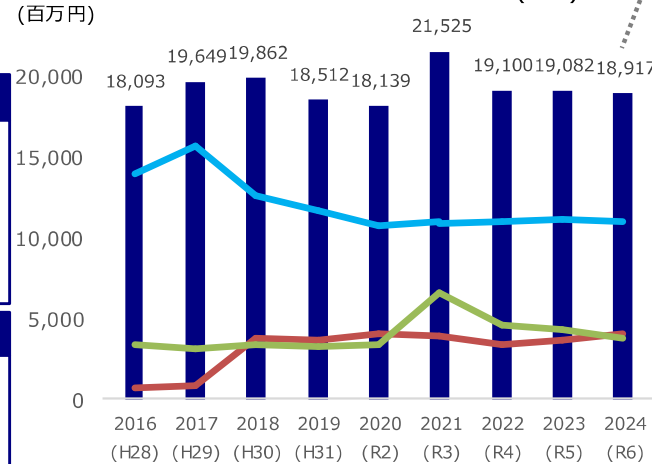
国立大学を中核とする共同利用・共同研究拠点等の活動状況について②

- 拠点における論文数及び科研費の獲得額・獲得件数はほぼ横ばいとなっており、研究の長期化などによるタイムラグも考慮し、引き続き成果に着目していく必要がある。
- 拠点に認定されている研究所における決算額については、経常費用、経常収益ともに、82国立大学法人全体の決算額と比較して、研究関連の比重が高いと言える。また、外部資金の獲得率も拠点に認定されている研究所の方が高い傾向がみられる。

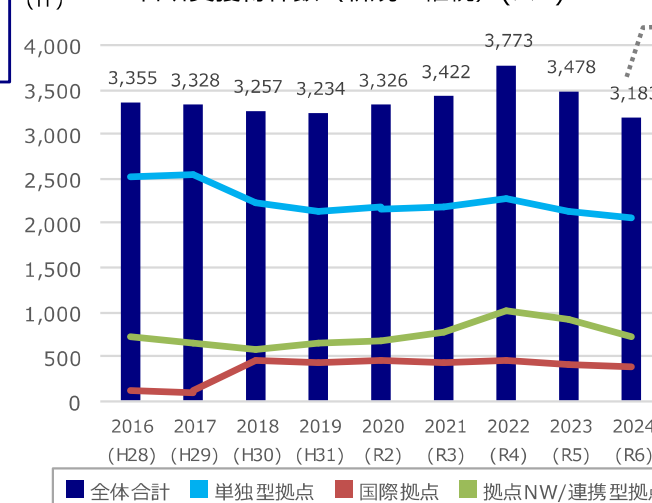
共同利用・共同研究による成果として発表された



科研費獲得額(新規+継続)の推移(※1)

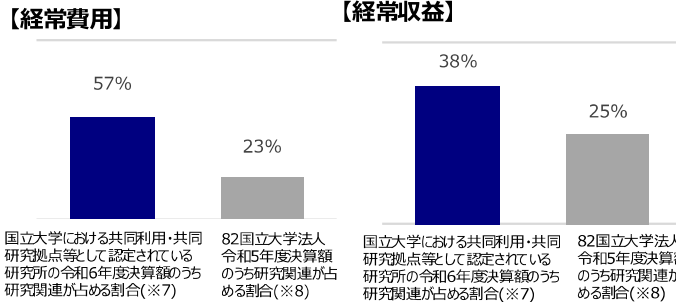


科研費獲得件数(新規+継続)(※1)

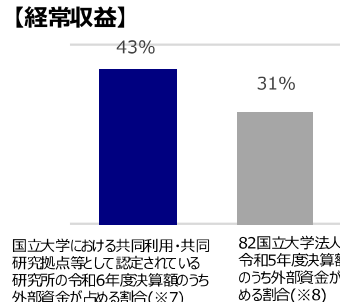


拠点に認定されている研究所における決算額

<研究関連の経常費用/経常収益について>



<外部資金の獲得について>



※1 各拠点より提出された実施状況報告書を基に文部科学省大学研究基盤整備課が加工・作成。

なお、論文数については、拠点以外に所属する者のみの論文であってもAcknowledgement(謝辞)に拠点における共同利用・共同研究による成果であるとして発表された論文は含む。また、TOP10%論文数/常勤教員数については、2020~2024の合計値を2024年の常勤教員数で割った数値。

※2 文部科学省科学技術・学術政策研究所、「科学技術指標2025」を基に文部科学省大学研究基盤整備課が作成。

※3 第34回 経済社会の活力ワーキンググループ(R7.11.21) 資料3-1より

※4 文部科学省HP「科学技術・学術審議会への諮問について」(東北大学: https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1288274_00002.htm) (東京科学大学: https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1288274_00004.htm)

※5 学校基本調査、年次統計を基に文部科学省大学研究基盤整備課が加工・作成。

※6 日本学術振興会 科研費データ(2024年12月公表)を基に文部科学省大学研究基盤整備課が加工・作成。

※7 各大学の令和6年度財務諸表のうち当該研究所の各目明細書を基に文部科学省大学研究基盤整備課が加工・作成。

※8 文部科学省HP「国立大学法人等の令和5事業年度決算について」別紙資料集を基に文部科学省大学研究基盤整備課が加工・作成。ただし、附属病院に係る額(経常費用においては診療経費、経常収益においては附属病院収益)は除いている。

国立大学を中核とする共同利用・共同研究拠点等の活動状況について②

「2025年 世界で最も影響力のある研究者トップ2%包括的リスト」に基づく、**国立大学を中核とする共同利用・共同研究拠点等に所属する専任教授のうち、約25%がトップ2%にランク入り**しており、共同利用・共同研究拠点等は高い研究力を有していることが分かる。

(出典 : <https://elsevier.digitalcommonsdata.com/datasets/btchxktzyw/8>)

「世界で最も影響力のある研究者トップ2%包括的リスト」(スタンフォード大学・エルゼビア社共同開発)

- 少なくとも5本の論文を発表している世界中の科学者を対象とし、標準化されたC-scoreの高い順に上位2%をリスト化。
- 被引用数の対象期間の違いにより、「生涯 (career-long) 」と「単年 (single recent year) 」の2つの区分で分析が行われている。
(「生涯」区分は2024年末までのデータが対象。「単年」区分は2024年中に受けた被引用数のデータが対象。)

「Composite-score」

文献データベース「Scopus (スコープス)」のデータに基づき、22の科学分野と174のサブ分野に分類し、各サブ分野で、以下の6つの要素を組み合わせることで算出される。

- ① Total citations : 全論文の被引用数
- ② H-index : 一定数以上引用された論文数を示す指標
- ③ Hm-index : 共著者数を考慮したh-indexの調整版
- ④ Citations to single-author papers : 単著論文の被引用数
- ⑤ Citations to single or first-author papers : 単著または筆頭著者としての論文の被引用数
- ⑥ Citations to single, first, or last-author papers : 単著、筆頭著者、または責任著者としての論文の被引用数

研究者の「著者としての貢献度」や「研究の独立性」も加味されている点が特徴。単に大量の共著論文に名前が載っているだけでは高評価にはならず、筆頭著者や単著論文での引用も重視されるため、**研究の質と主導性が反映される設計**になっている。

(※1)

	分類	該当人数
世界全体	調査対象研究者総数	11,516,650
	トップ2%ランク入り研究者総数	230,333
上位国	【1位】アメリカ合衆国	87,858
	【2位】イギリス	20,573
	【3位】中国	13,855 <small>香港の1,481人含む</small>
	【4位】ドイツ	12,165
	【5位】カナダ	9,589
	【6位】日本	8,731
	【7位】オーストラリア	8,025
	【8位】フランス	7,285
	【9位】イタリア	6,839
	【10位】オランダ	4,755

(※1)

	分類	該当人数
日本	日本全体	8,731
	大学	6,857
	大学共同利用機関法人	90
	国立研究開発法人	612
	国立高等専門学校	20
	企業・独立行政法人・民間病院等	1,162

拠点における専任教授のtop2%研究者数(生涯)及び割合について (※2)

専任教授数	うち、トップ2%研究者数	割合
984	248	約25%

※1 物質・デバイス領域共同研究拠点 調べ(2026年3月時点)。

※2 放射線災害・医学研究拠点/物質・デバイス共同研究拠点 調べ(2026年3月時点)。

専任教授数は各研究所・センター又は各大学が公開している教員名簿等を参照した。特任教授、兼任教授、名誉教授は除いた(現在も所属機関で活動しているノーベル賞受賞者は含む)。

文系(人文社会系)の研究所・センターは調査対象外とした。

トップ2%研究者リストの所属と現在の所属とが異なる場合には、同一人物であることを確認後、現在の所属でカウントした。

※3 出典:学校基本調査、年次統計